

「東日本大震災」支援ニュース

— 現地の仲間・住民と連帯し、ともに力を合わせて一歩ずつ —

震災発生翌日より支援行動を開始！全国の医療生協、民医連の仲間も続々現地支援に入っています。

【徳島健康生協が現地入りした医療・物資支援の主な拠点】

坂総合病院(宮城県塩竈市)・・・全日本民医連の医療支援拠点病院。今回の震災では塩竈市・多賀城市の避難所全体の管理を担っています。
松島医療生協(宮城県宮城郡松島町) 浜通り医療生協(福島県いわき市)

この間の主な支援について

3/12 (土)	<p>支援物資輸送隊 派遣 (看護師1名・事務2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な物資=病院備蓄の非常食2日分/放射能対策のヨウ化カリウム980錠/サージカルマスク2000枚/手袋18箱/エプロン3箱/寝袋・ナップザック等 ・義援金100万円
3/14 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県民医連「東日本大震災」支援対策本部を結成 ・健生病院・診療所等の各窓口で義援金受付開始
3/15 (火)	<p>医療支援隊 派遣 (医師1名・看護師1名・事務2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援物資として食料や飲料水、医薬品を可能な限り搬送。 ・3/15(火)朝発-3/19(土)夜帰任、3/22(火)報告会開催
3/20 (日)	<p>医療支援隊 派遣 (医師1名・歯科医師1名・看護師1名・事務1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回同様、掲載可能な限り支援物資を搬送。 ・3/20(日)朝発-3/24(木)夜帰任、3/29(火)報告会開催
3/25 (金)	<p>医療支援隊 派遣 (医師1名・看護師1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3隊より交通手段変更 徳島-東京(飛行機)-現地(民医連バス) ・3/25(金)午後発-3/29(火)夜帰任、4/5(火)報告会開催
4/2 (土)	<p>支援物資輸送隊 派遣 (事務2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合員のみなさんから寄せられた物資、現地からの要望が強かった「水」、「野菜」を中心に。大量の物資が運べるよう、とくしま生協さんよりトラックを借りて福島県浜通りへ搬送。 ・4/2朝出発-4/3夜帰任
4/5 (火)	<p>医療支援隊 派遣 (医師2名・看護師1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/5(火)夜発-4/10(日)夜帰任、4/12(火)報告会開催
4/11 (月)	<p>医療支援隊 派遣 (医師1名・看護師1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/11(月)夜発-4/16(土)夜帰任、4/19(火)報告会開催
4/18 (月)	<p>医療支援隊 派遣 (医師1名・看護師1名・事務1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/18(月)夜発-4/23(土)夜帰任、4/26(火)報告会開催予定

医療支援・物資支援の内容

【医療支援 報告より抜粋】病棟は許可病床+35床という過密状態、退院を促していかないと後が入らない。病院はこのような状況だが、地域は家に病人けが人が帰ってきてても…。という間の中での退院支援。でも、何とか理解してもらえ家族が多い。救急外来でも、被災ならではの症例がほとんどで、帰るにも家がない…。と肩を落とす姿にかけ言葉が難しい。



【医療支援 報告より抜粋】被災状況の激しい地域を優先して避難所回りをを行い、歯ブラシを配りながら、被災者の悩みなども聞きながら、歯科要求を聞いて回る。被災から1週間以上たつと、だんだんと歯科要求も出てきており、歯ブラシの配布は大変喜ばれた。壊滅的な打撃を受けた野蒜地域にも入り、職員が亡くなった施設の中にも入り。現場に立ってみて、はたしてこの地で住民がもう一度住もうという気になるのか、ある地域がそのまま消滅するのではないかと気が持ちになった。本当に長い支援が必要。



【医療支援 報告より抜粋】回った避難所は、820人が生活していて、風邪などから慢性にいたるものまであり、毎日来て欲しいという要望が多い。地域訪問では、避難所にいる人は自衛隊のお風呂支援など受けられていたが、自宅にいる人は支援物資も届かないので自分で用意しなければならない。しかし、ガソリンもないので買い物にもいけない、明日で食料もつきると言う高齢の人が…。



【物資支援 報告より】患者さんの家族から「人参」の支援物資の申し出があり、福島県が放射能汚染の影響で野菜の確保に苦労しており、いわき市の浜通り医療生協に運ぶ事になった。到着時、玄関には院長先生はじめ多くの職員に出迎えて頂き、大歓迎される。



【医療支援 報告より抜粋】家があるはずのところになぜか家がなくな、家などなかった土地になぜか屋根がある。津波の被害の悲惨さを目の当たりにした。これらの被害の大きかった地域からの避難者が多い地域の避難所へ。僕達の支援はほんの一助に過ぎないかも知れないが、少しでも力になれるように出来ることをしていきたい。洗髪支援に対する「本当に気持ち良かったです」との感謝の言葉にこちらが心洗われた。不安な気持ちを聞いて欲しいという要求はかなり高いので、声をかけるだけでも大切。(大きな余震の影響で)水道と電気が止まったので、外の仮設トイレのみの利用となりお年寄りにとってはかなりの負担。せっかく家の掃除をしたり帰る準備をしていたのに今回の余震で努力が水の泡になった人が多くおられた。



■全国の仲間と共に

震災発生から1か月間の 主な団体の医療支援者数	
日本赤十字社	約2700人
全日本民医連	1840人
日本医師会	約1800人
DMAT	約1500人
徳洲会と関連団体	626人
日本看護協会	578人
日本歯科医師会等	518人
日本薬剤師会	515人
日本病院薬剤師会	515人
国立病院機構	423人
大学医学部	411人

全国の医療生協・民医連の職員・組合員が、徳島と同様、震災直後から様々な支援活動に奮闘しています。

現地の職員らは、自らが被災しながらも医療活動や地域・避難所訪問、組合員訪問にと日々がんばっています。

左記は、全国大手新聞に掲載された震災発生から1ヶ月間の主な団体の支援状況です。全日本民医連は、日本赤十字社に次ぐ支援者を積極的に送っており、今後も継続して取り組んでいきます。

全日本民医連(全日本民主医療機関連合会)とは・・・戦後、医療に恵まれない人々の要求にこたえようと、地域住民と医療従事者が手をたずさえ、民主的な医療機関が各地につくられました。以降、地域に支えられながら身近な医療機関として活動しています。現在では、全国に1700カ所を超え、約6万2千人の職員と、医療生活協同組合員や友の会会員約318万人の方々が、ともに保健・医療・福祉の総合的な活動、安心して住み続けられるまちづくり運動を進めており、徳島健康生協の各事業所もこの全日本民医連に加盟しています。



支援隊が帰任した後は、毎回報告会を開催し、現地の状況や課題を共有し"自分たちにできること"につなげていける取り組みとしています。短時間ですが、現地の生の声が聞けるとあって、毎回多くの職員が参加し、組合員さんも参加されています。

■組合員さんの奮闘



徳島健康生協組合員の皆さんも自分のことのように支援に奮闘しています。地域での活動や連携をすすめてきた組合員さんならではの視点と行動力に脱帽です。

上の写真は、震災のすぐ後に組合員さんが、軽トラックを病院に横付けして自主的に震災支援野菜販売カンパ活動に奮闘しているところです。手書きの案内看板がステキです。

下の写真は、組合員理事が作成した義援金の「訴え」です。震災の翌日にはいち早く箱を用意し、その後、支援の様子をニュースで知らせていると、このようなポスターを独自に作成して患者さんに呼び掛けています。

また、ご協力いただいた方へ状況をお知らせできるよう、掲示板を設置し、ニュースやお礼を掲載しています。

お米やレトルト食品はもちろん、毎日パンやおにぎりではないへんと、大量の野菜やお肉を差し入れてくださる組合員さんもありました。

今不足しているものや緊急に必要なものを支援ニュースなどで知り、持ってきてくれる組合員さん、患者さんが多くいました。

その他、診療所や支部総会での積極的な義援金呼びかけや、バザー活動を行い、売上金をそのまま義援金としてご協力いただいた支部もあります。



■義援金の取り組み状況

2011年4月18日集約現在
義援金総額 8,551,788円



約1ヶ月間でこれだけ多くの義援金を寄せていただきました。本当にありがとうございます。義援金は被災者支援のために有効に活用いたします。

少しずつ復興に向けての動きが出てきていますが、長期の支援が必要です。義援金につきましても取り組みを継続させていただきますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

- ・震災後すぐに健生病院や各診療所や事業所に義援金箱を設置いたしました。
 - ・「健康と生活」4月号に義援金振り込み用紙を同封させていただきました。
 - ・「大変な中で(主治医の)先生が現地支援に入っているから」とお声を掛ける前に義援金の協力をいただいた患者さんも多くありました。
 - ・職員へは、'給与1日分の義援金'を呼びかけ、多くの職員が応えています。
- 上記金額の内、地域組合員さんより寄せられた義援金は約56万円となりました(事業所窓口の義援金箱に寄せられた分は含んでいません)。

■今後の取り組み

医療支援第6隊以降も2名の医師をはじめ、数名の職員が支援志願をしています。しかし今後は、中国四国地域単位で派遣することになっていきますので、今までのように徳島から毎回支援を出すことにならないかも知れませんが、状況に応じて引き続き積極的に現地支援に取り組みます。

求められる支援のあり方は、日々変わってきますし、一時的なものではなく、根気強い長期の支援が必要です。今後も支援対策本部で検討し、徳島健康生協・徳島県民医連としてできる支援を継続して取り組んでいきます。

支援物資については4/18現在、徳島健康生協での受付を行っております(ただし、状況は変化する可能性がありますので、各事業所窓口やホームページ等でご確認ください)。

各ホームページに支援の最新状況が随時掲載されています。あわせてご確認いただけますようよろしくお願いいたします。

- 徳島健康生協 <http://www2.tcn.ne.jp/hcoopt/>
- 医療福祉生協連 <http://www.hew.coop/>
- 全日本民医連 <http://www.min-iren.gr.jp/>